

## 令和3年度 石神井川生物調査の概要

### 1 調査概要

#### ① 調査地点及び調査日時等

河川名	調査地点名	調査実施日	調査時間	天候	気温 (°C)	水温 (°C)
石神井川	①久保田橋付近	2021/8/19(木)	9:00~11:30	晴れ	33.5	22.5
	②緑橋付近	2021/8/19(木)	12:30~15:00	晴れ	34.5	23.5

#### ② 調査方法

各調査地点において投網、タモ網(手網)及びカゴ網を用いて、魚類、底生動物を採集した。

採集した個体は、現地で種の同定、個体の計測、写真撮影後、現地に再放流した。現地での同定が困難な個体については、10%ホルマリンで固定して持ち帰り、実体顕微鏡下で同定した。

なお、底生動物については、肉眼でみえる個体を採集対象とした。



調査状況写真



投網



タモ網



カゴ網

### 2 調査結果

#### ① 河川状況

##### ①久保田橋付近

河床全面に護床ブロックが設置され、一部には植生ブロックが水制状に設置されている。植生ブロックにより小規模な瀬と淵が形成されている。

カゴ網は久保田橋下流の植生ブロック脇などやや淵状になっている2箇所に設置した。



##### ②緑橋付近

この付近は河道が蛇行しており、凸側に寄り州が形成されている。寄り州は砂で形成され、植生は前年度より多くなっていた。河道の一部には深みがあり、水草が繁茂する場所もあった。

カゴ網は緑橋の上流のやや淵状になっている箇所と橋下の滞留部に計2箇所設置した。



## ② 魚類調査結果

石神井川の2地点全体では、アブラハヤ、ウグイ、ドジョウなど、4目5科8種の魚類が確認された。出現種のうち、「環境省 RL2020」に該当する種として、絶滅危惧Ⅱ類に該当するギバチ、準絶滅危惧に該当するドジョウが確認された。

「東京都 RL2020 区部」に該当する種として、絶滅危惧ⅠA類に該当するギバチ、絶滅危惧Ⅱ類に該当するアブラハヤ、ヒガシシマドジョウが確認された。

外来種については「特定外来生物」に該当する種は確認されなかったが、「その他の総合対策外来種」に該当するグッピーが確認された。

No.	目名	科名	種名	石神井川		合計	環境省 RL 2020	東京都 RL 2020 区部	外来種	
				①	②					
				久保田橋 付近	緑橋 付近					
1	コイ目	コイ科	アブラハヤ		3	3		VU		
2			ウグイ	39	1	40				
3			モツゴ		2	2				
4		ドジョウ科	ドジョウ	2	9	11	NT			
5			ヒガシシマドジョウ		15	15		VU		
6	ナマズ目	ギギ科	ギバチ	3	12	15	VU	CR		
7	カダヤシ目	カダヤシ科	グッピー		1	1			その他	
8	スズキ目	ハゼ科	ヨシノボリ属		1	1				
	4目	5科	8種	種類数計	3	8	8	2	3	1
				個体数計	44	44	88			

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2020」に従った。

### ○「環境省 RL2020」: 環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020年

絶滅危惧ⅠB類(EN): I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ類(VU): 絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧(NT): 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

### ○「東京都 RL2020 区部」: 東京都レッドリスト(本土部)2020年版

絶滅危惧ⅠA類(CR): ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧Ⅱ類(VU): 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの

準絶滅危惧(NT): 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

留意種(留): 現時点では絶滅の恐れはないと判断されるが、いずれかの理由で留意が必要とされるもの(理由本文を要約)

### ○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省に指定された種(2017)。

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

重点対策外来種(重): 甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い。

その他 : その他の総合対策外来種

### ③ 底生動物調査結果

石神井川の2地点全体では、モノアラガイ属、カワリヌマエビ属など、5綱5目5科5種の底生動物が確認された。

出現種に、「環境省 RL2020」および「東京都 RL2020 区部」に該当する種は確認されなかった。また、外来種についても該当する種は確認されなかった。

No.	綱名	目名	科名	種名	学名	石神井川		合計	環境省 RL 2020	東京都 RL 2020 区部	外来種
						① 久保田橋 付近	② 緑橋 付近				
1	腹足綱	汎有肺目	モノアラガイ科	モノアラガイ属	<i>Radix</i> sp.		1	1			
2	ミミズ綱	ツリミミズ目	ヒモミミズ科	ヤマトヒモミミズ	<i>Biwadrilius bathybates</i>		1	1			
3	ヒル綱	吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル	<i>Dina lineata</i>	3	5	8			
4	軟甲綱	エビ目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> sp.	45	29	74			
5	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	ユスリカ属	<i>Chironomus</i> sp.		1	1			
	5綱	5目	5科	5種	種類数計	2	5	5	0	0	0
					個体数系	48	37	85			

注) 種数の合計は単純集計

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2020」に従った。

○「環境省 RL2020」: 環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020年

○「東京都 RL2020 区部」: 東京都レッドリスト(本土部)2020年版)

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省. に指定された種(2017)。

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省. に指定された種(2016)

緊急対策外来種(緊): 対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある。

その他の総合対策外来種(その他): 総合対策外来種のうち、緊急対策外来種、重点対策外来種以外の種。

### 経年変化について

石神井川久保田橋付近では、平成20年以前は6種、平成21年からはドジョウ、アブラハヤなど0~6種と確認種数は少なく、本年度の確認種は、ウグイ、ドジョウ、ギバチの3種であった。昨年度に比べ、種類数、個体数とも減少しており、特に個体数については、昨年度、個体数が最も多く確認されたアブラハヤは確認されなかった。また、個体数は少ないものの平成29年度から4カ年連続して確認されたヒガシシマドジョウも確認されなかった。さらに、個体数は1個体と少ないものの、昨年度初めて確認されたタイリクバラタナゴ、グッピーについても確認されなかった。

現地調査時の河川の状況は、昨年よりやや増水していた状況であったが、久保田橋付近の環境が大きく変化した様子は見られないことから、これら出現種の変化については、近年多発するゲリラ豪雨等の急激な増水による影響の可能性が考えられる。

石神井川緑橋付近では、平成20年以前は11種、平成21年からはアブラハヤ、モツゴ、ドジョウ、ギバチなど1~9種が確認されている。本年度の確認種は、アブラハヤ、ウグイ、モツゴ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ギバチ、グッピー、ヨシノボリ属の計8種であり、昨年度に比べ、種類数、個体数とも増加している。この地点は、規模は小さいものの寄り州があり、流れの中に水草が繁茂する場所もある。本年度は例年と同様にアブラハヤ、ウグイ、モツゴ、ギバチが昨年度に続き確認されたが、コイ、タモロコは確認されなかった。しかしながら、昨年度確認されなかったドジョウ、ヒガシシマドジョウが寄り洲付近の水草の中で確認された。

生息する種類や個体数の変動の要因としては、各調査地点とも河川構造が概ね単純な3面張り護岸となっており、豪雨等の急激な増水により河道が洗われてしまうため、大半の魚類が、下流に流されたり、逆に上流から流されて来たりすることによるものと考えられる。

また、久保田橋付近に設置されている植生ブロックや大小さまざまな寄り州、ブロックのすき間、水草などは、増水などからの逃げ場となりえる環境であり、現状より増加することが望まれる。

## 魚類の経年調査結果

### ①久保田橋付近

No.	種名	H14~20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	環境省	東京都	外来種
1	コイ	○																
2	オイカワ	○	1		7													
3	タイリクバラタナゴ													1				重
4	アブラハヤ		5		12			3		1	3	7		68			VU	
5	マルタ								3									留
6	ウグイ						1			1	1				39			
7	モツゴ	○									1		5					
8	タモロコ	○					1				2	3						
9	ウグイ亜科(属)							1										
10	ドジョウ	○	4	11			2	3				52	1		2	NT		
11	ヒガシシマドジョウ*2										3	3	3	4				VU
12	ギバチ(属)*3		2					1				100<	1	16	3	VU	CR	
13	グッピー													1				その他
14	ミナミメダカ	○									1					VU	CR+EN	
15	トウヨシノボリ類*4		1	1			1											
16	ヨシノボリ属							2										
	種類数合計	6	5	2	2	0	4	5	1	2	6	5	4	5	3	3	5	2

### ②緑橋付近

No.	種名	H14~20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	環境省	東京都	外来種
1	コイ	○				1				1			1					
2	キンブナ	○														VU	CR+EN	
3	フナ属(含金魚)	○	1			1					1							
4	ダニオ亜科	○																
5	オイカワ		1								2							
6	アブラハヤ	○	52				13	100<	4	20<	15	100<	59	1	3			VU
7	ウグイ	○											1	13	1			
8	モツゴ	○	5	6		2	9	2		1	5		5	1	2			
9	タモロコ										1	6	1					
10	ドジョウ	○	10	22	1	7	7	6	2		9	4	1		9	NT		
11	ヒガシシマドジョウ*2							1	1		3	4	2		15			VU
12	ギバチ(属)*3	○	1	3		10		1	2	1	3	6		9	12	VU	CR	
13	グッピー														1			その他
14	ミナミメダカ										2					VU	CR+EN	
15	トウヨシノボリ類*4	○	1	1														
16	ヨシノボリ属	○													1			
	種類数合計	11	7	4	1	5	3	5	4	4	9	5	7	4	8	4	5	1

○:過去調査において出現の記録があり。 H21年以降の数値は確認個体数

\*1)過年度調査ではウナギとして記載あり

\*2)過年度調査ではシマドジョウとして記載あり

\*3)平成17年はギバチ属として表記

\*4)トウヨシノボリ類の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2020」に従った。過年度調査ではトウヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類として記載あり

環境省:「環境省RL2020」:環境省レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020年

東京都:東京都レッドリスト(本土部)2020年版

・外来種は、以下に従った。

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省。に指定された種(2017)

特:特定外来生物:外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

重:重点対策外来種 甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い。

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2020」に従った。

### 採取生物写真



ウグイ



モツゴ



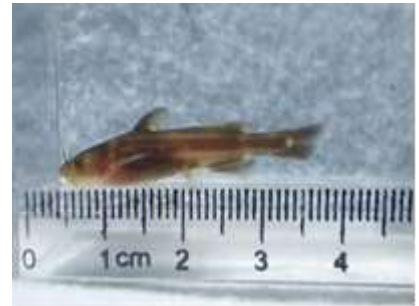
アブラハヤ



ヒガシシマドジョウ



ドジョウ



ギバチ



ヨシノボリ属



モノアラガイ



カワリヌマエビ属

問い合わせ先：板橋区資源環境部環境政策課自然環境保全係 電話：03-3579-2593